令和　６年　２　月　26　日

文教厚生常任委員会
　委員長　綾城　美佳　様

文教厚生常任委員　林　哲　也

文教厚生常任委員会行政視察報告書

下記の日程で行政視察を実施しましたので、別紙のとおり報告します。

記

１.視察期日及び視察先
　令和６年２月５日（月）
　愛知県　蟹江町
　「文化財保存活用地域計画について」

　令和６年２月６日（火）
　愛知県　小牧市
　「窓口サービスについて」

２.視察参加名簿
　委員長　　綾城　美佳
　副委員長　　米弥　又由
　委員　　林　　哲也
　委員　　岩藤　睦子
　委員　　中平　裕二
　委員　　上田　啓二
　委員　　江原　健二
　委員　　ひさなが信也　　以上８名

３．視察報告・所感　別紙

(別紙)

<table>
<tr><td>視察先</td><td colspan="4">愛知県　蟹江町</td></tr>
<tr><td>視察日時</td><td colspan="4">令和６年２月５日（月）　14：00～15：30</td></tr>
<tr><td>視察項目</td><td colspan="4">文化財保存活用地域計画について</td></tr>
<tr><td>対応部署名</td><td colspan="4">蟹江町教育委員会生涯学習課</td></tr>
<tr><td rowspan="2">自治体概要</td><td>人口（令和５年12月１日）</td><td>37,132人</td><td>面積</td><td>11.09㎢</td></tr>
<tr><td colspan="4">蟹江町は、愛知県の西南部、濃尾平野の低湿地にあり、光川・善太川・蟹江川・福田川・佐屋川大膳川の６本の河川が流れ、町を横断するかたちでJR関西本線や近畿日本鉄道名古屋線、国道１号等の幹線道が通り、東は名古屋市、北は津島市、あま市、西は愛西市、南は弥富市に接している。蟹江町のホームページには蟹江という地名について「『カニエ』と名づけられた地名が、初めて文献に表されたのは、1215年（建保３年）『水野家文書』の中からといわれています。そのころの蟹江は、一面海に囲まれた土地で、『蟹江郷』とか、『富吉荘』という名称で呼ばれていましたが、海辺に柳が茂り、多くの蟹が生息していたことから『蟹江』と呼ばれるようになったと伝えられます」とある。また、町の沿革によれば、市制・町村制施行時から存続している自治体は、県下で１市１町２村しかなく、全国で最も古いまちの一つとなっており、本年10月１日に町制施行から数えて135周年を迎える自治体である。</td></tr>
</table>

視察内容

視察では、教育委員会生涯学習課の課長、課長補佐兼生涯学習係長兼文化財保護係長兼主任学芸員から「蟹江町文化財保存活用地域計画」についての説明を受けるとともに、町議会の水野智見議長から文化財行政に対する思いを伺い、質疑応答を行った。その後、議場を見学させていただいた。

所　　感

文化財保存活用地域計画とは、地域ごとに作成する文化財の保存と活用に関する総合的な計画であり、2019年４月１日施行の改正文化財保護法により、法制化されたものである。その趣旨は地域の特徴を生かした振興と文化財の継承を目的とし、これにより地域総がかりで文化財を守り、活かし、伝える体制の構築を図り、文化財の存続につなげていくことが期待されているものである。蟹江町では2016年度の須成祭（すなりまつり）のユネスコ無形文化遺産登録を好機と捉え、文化財保護の機運が高まり、翌年に「蟹江！観光・産業振興プロジェクト会議 」が発足し、歴史文化への関心が高まっている。その後、2020年度に「第５次蟹江町総合計画」等の上位・関連計画が策定されたことと合わせて、蟹江町文化財保存活用地域計画の作成に着手した経緯がある。

本市においても、文化財保存活用計画については「各文化財個別の状況に応じて、その保存・活用の考え方や所有者等において取り組んでいく具体的な取り組みの内容を位置付けたもので、個々の文化財の保存・活用を進めていくための指針となる基本的な計画」とし、「文化庁は現在、これらの計画策定に係る補助金や、計画のある市区町村や文化財を優先、もしくは対象とする補助金を設けるなど、計画策定を積極的に後押ししているところ」との考えを示した上で、「市では、限られた人員・予算の中、文化財修理に係る文化庁の補助金の要件となっている、国指定文化財個別の文化財保存活用計画から優先的に作成していく予定」（2023年６月定例会一般質問に対する答弁）としている。

本市の有形・無形の文化財、文化財施設は、それぞれ魅力的で特色のある資源であり、それらの文化資源を有効活用するためにも、行政と関係機関、市民それぞれが協力し、保存･活用を考える必要があり、それを具現化するには文化財保存活用地域計画の作成を早急に進める必要がある。

<table>
<tr><td>視察先</td><td colspan="4">愛知県　小牧市</td></tr>
<tr><td>視察日時</td><td colspan="4">令和６年２月６日（火）　９：00～10：30</td></tr>
<tr><td>視察項目</td><td colspan="4">窓口サービスについて</td></tr>
<tr><td>対応部署名</td><td colspan="4">小牧市役所福祉部市民窓口課</td></tr>
<tr><td rowspan="2">自治体概要</td><td>人口（令和５年12月１日）</td><td>149,884人</td><td>面積</td><td>62.81㎢</td></tr>
<tr><td colspan="4">小牧市のHPの概要によれば、「昭和30年（1955年）１月１日、小牧町、味岡村、篠岡村の３町村が合併し、人口約３万２千人、県下21番目の市として誕生。昭和38年（1963年）には北里村と合併して、現在の市の規模となりました」とあり、名神高速道路・東名高速道路・中央自動車道の３大ハイウェイの結節点という立地条件に加え、中部の空の玄関名古屋空港、航空自衛隊小牧基地も所在している。市庁舎に隣接する小牧山については、1563（永禄６）年、織田信長は頂上から美濃方面を一望できる小牧山に城を築き、清須から移り住んだと言われている。また愛知県特産の鶏の卵肉兼用種である名古屋コーチン（正式な品種名は名古屋種）発祥の地として知られている。</td></tr>
</table>

視察内容

視察では、福祉部市民窓口課の課長をはじめ、主幹、住民登録係長や証明発行係長から「市民窓口課」の業務全般に対する説明を受け、活発な質疑応答の後、市役所１階フロアの市民窓口課の業務を拝見した他、お悔やみコーナーを見学させていただいた。

所　　感

死後の行政手続きのワンストップ「おくやみコーナー」、市民窓口課等業務委託、休日開庁（毎週日曜日 8 時 30 分から 17 時 15 分※12 月 29 日から１月３日を除く）、スマート窓口など、市民窓口課の業務を学んだが、特に市民窓口課等業務委託については関心のあるテーマだった。

本市をはじめ、多くの自治体で業務の外部委託（アウトソーシング）が行われており、具体的には図書館や文化施設などを民間に委託する「指定管理者」制度、病院や大学などを別法人にする「独立行政法人」、建設から運営まで民間に委ねる「ＰＦＩ」などがある。小牧市の市民窓口課及び各支所並びに各市民センターにおける各種業務は民間委託となっており、委託に至った経緯・背景として、迅速かつ正確、効率的な処理体制を確立し、民間事業者の技術と創意工夫を活用することにより一層の快適な市民サービスを提供し、当該業務の質の維持及び向上を図ることが目的となっている。この目的を沿って 2023 年 10 月 1 日～2026 年 9月 30 日までの期間で、プロポーザル最優秀者のパーソルテンプスタッフ株式会に委託している。

2006 年６月２日に公布され施行された市場化テスト法（競争の導入による公共サービスの改革に関する法律）は、公共サービスの担い手を官民の競争入札で決めるものであり、小牧市の窓口業務の民間委託もこの法律に基づくものである。当時は「官業の開放」によって「100 年に一度、50 兆円のチャンス」（日経ＢＰ社「パブリックビジネス・リポート」）などと宣伝され、市民は公共サービスの提供を受ける立場からサービス提供を受ける契約者の立場に転換させられることになり、プライバシーの侵害の恐れなど、行政責任が曖昧になることが指摘されていたものである。

本市おいても近い将来、窓口業務の民間委託が政治日程に上る可能性もあるが、小牧市の取り組みあるように受付けと引渡しだけを対象にし、業者に守秘義務を課している点は大いに参考になった。